

第 12 回東日本大震災 N G O 情報交換会

- ・ 日時：2011 年 6 月 6 日(月) 15 時～17 時
- ・ 場所：早稲田奉仕園 6 階 スカイラウンジ
- ・ 出席者：出席者リスト参照

議事録

1 JANIC からの情報提供

1.1 福島県報告（別添 1、2 参照）

【JANIC 竹内】

概況

- ・ JANIC は仙台事務所から県北部を、東京事務所から県南部をカバーしている。今回は相馬市、南相馬市の状況を中心に報告
- ・ 南相馬市は、市役所所在地区も福島第一原発 20～30km 圏内の緊急時避難区域で、高齢者や子ども等が避難対象だが、実際には 2,000 人近くの子供たちが帰って来ており、鹿島地域の小学校に通学している状態。
- ・ 一般的な放射線量は福島市・郡山市の方が高く、同二市の市民の中には子どもたちを避難・疎開・移住させたいという声がある。そうした声の裏には危険回避・ストレス発散等多様な目的があるが、受入先があれば夏休みのみ他地域に移りたいという点で共通している。住民の中には個別に地方自治体や団体に問い合わせ、他県に子どもを送る準備をしている方もいる。
- ・ 行政が避難者の実態を把握しきれていない一方、学校が生徒の居場所を把握しており、子ども達を中心に各地に分散している住民を結びつけられる可能性はある。
- ・ 福島県特有の課題として、分散した市民のコミュニティーの再構築があげられる。各団体・個人の試みは様々で、ミニコミ発行や映画上映会でのビデオレター等を通して情報が流されている。
- ・ 行政の対応の大部分が原発問題に注がれるため、避難民のケアや被災地復興が遅れている。避難所から仮設住宅への移住が進んではいないが、避難所での衛生環境の悪化や夏物衣料の不足が目下の課題。

今すぐにも福島県で協力できる具体的案件の提案

- ・ 「フー太郎の森基金」活動との協働
エチオピアでの植林を本業とする NGO 団体。県内で独自のネットワークを辿って活動（活動例：被災イチゴ農家泥出し、景勝地松川浦の環境調査/泥出し清掃、仮設住宅への生活用品支援（別添 2 ちらし参照））している。活動の輪を広げたいが若者の力が不足しており、NGO の活力が加わることで活動の可能性は広がるとのこと。
- ・ 南相馬市市民図書館の運営サポート（別添 2 写真参照）

同市ではジャパン・ボランティアセンター(JVC)がコミュニティーFMの支援をしているが、行政の震災対応によるマンパワー不足で閉館した南相馬市市民図書館を再開したいという市民からの要望が強い。NGO から人材派遣ができれば、行政からも館長クラスの人材を一人戻して開館に漕ぎつけたいとのこと。大学負担で司書を派遣できるか検討したいという声も、福島大学より出ている。

- ・ 南相馬市の NPO との協働

避難民と自宅待機者を結ぶネットワーク構築を企画中。特に、避難所や住居・学校の状態等の情報を相互に流し、今後移住時や戻る際の情報にしようという構想。将来世界中から来訪するであろう研究者の世話を事業化（防護服貸出、宿泊施設、ガイド等）するというアイデアも挙がっている。ダメージをチャンスに変えるという考え方。

- ・ 南相馬市「復興市民会議」設立支援

NPO や市民を中心に復興市民会議をつくりたいという話があり、南相馬で活動する NGO 等に加わってもらえれば有難いとのこと

- ・ シネマエール東北の福島県内実施団体である「山形県映画センター」(別添 2 新聞記事参照)

避難所で無料上映会を実施中。映画上映の冒頭に避難者が住んでいた町の現状映像を入れたり、ビデオレターで被災地に分散した人々を結びつけるというアイデアがあるが、現時点では人材不足。NGO と協働できれば多様な企画を実現可能だろう。

- ・ イベント、シンポを福島で開催

福島大学災害復興研究所が復興シンポジウムを 6 月 11 日(金)に実施予定(別添 2 ちらし 参照)。従来福島県では浜通・中通・会津に県を三分する考え方があり、県全体が合同で動くのは難しいかもしれないが、横の連携を模索する試み。

1.2 「新しい公共」推進会議震災ワーキンググループ現地ヒアリング報告

【JANIC 山口】

- ・ 従来政府・地方自治体が担っていたことを出来るだけ民間が担っていこうという「新しい公共」という考え方に基づく推進会議震災ワーキンググループが、6 月 2~3 日に遠野、仙台、郡山でのヒアリングを実施。地元行政、社協、NPO 等のキーパーソンから聞いた主なポイントは以下の通り。
- ・ 支援策(スキーム)は多くあるが、市町村レベルでは使いづらい。末端で自由度の高いものにほしい。地元で自腹で頑張っている人達も、制度へのアクセス困難でお金が無くて困っている。
- ・ 雇用創出の重要性。自ら生産手段をもって自活したい人が多いが、生産手段がない。一方で、失業保険をもらう方が日雇いよりも収入が高く、日雇い(キャッシュ・フォー・ワーク等)に人が集まらない。失業保険と日雇いの両立も検討すべきという提案あった。

- ・ 支援の受け皿となれる組織が少ない。NGO には現地団体のキャパシティビルディング・人材組織育成をしてほしい。
- ・ 寄付税制（税額控除）をより多くの団体が活用しやすいようにしてほしい。
- ・ 福島に関しては、原発の問題でなかなか先が見えないため地域再生が困難であること、風評被害に多くの方が苦しんでいる、という訴えがあった。
- ・ 今回のヒアリング結果は意見書に取りまとめの上、復興会議での提言を通して首相・各省庁に訴えていく予定。

1.3 その他

【JANIC 中森】

富士通より、PC 提供/貸与のオファーがある。ミーリングリストに詳細を流し、ニーズ調査をする予定。

2 各参加団体・組織からの活動紹介、情報提供

2.1 JICA 地球ひろば（高田）

福島県二本松の協力隊訓練所には、南相馬・富岡・浪江から約 140 人が避難。全員個室に移り三食配食される等、環境は整っているが、避難者の精神的ストレスが懸念される。

2.2 JHP・学校をつくる会（田中）

宮城県南三陸町にボランティアを 6 月第一週までに 14 次隊 107 名派遣。

南三陸町の災害ボランティアセンター(DVC)にスタッフを派遣し運営作業支援を行っているが、徐々に派遣人数を減らし、現地社会福祉協議会（社協）の方に運営を任せようとしている。

夏には林間学校を開催し、大規模なボランティア派遣を検討。今月中に理事が現地を視察し、詳細を決定する。

2.3 難民を助ける会; AAR（名取）

現在は障害者・高齢者支援が中心で、必要に応じて物資配布を実施。道が細くて入れない場所に、小さなバスを提供（活動終了）。巡回型医療チーム（医師 1 人と看護師 2 名）の健康診断継続、週末を中心に炊き出しを実施。

仙台事務所・盛岡事務所を設置。福島には東京から対応しており、13 の市町村において仮設住宅入居者へ向けて、日本赤十字の家電 6 点セットにカバーされていない生活必需品を提供。

2.4 ブリッジエーシア ジャパン;BAJ（大津）

陸前高田・大船渡で配食活動。5 月 20 日よりジャパンプラットフォーム（JPF）資金

での事業開始に伴い現地活動量が拡大。現在、東京のスタッフ 3 名を岩手に派遣。

2.5 つながり・ぬくもりプロジェクト（黒住）

自然エネルギー、太陽光を使用した被災地支援を行っている。オブサーバーとして参加

2.6 JGC 通訳ボランティア事務局（大崎）

6 月 3 日でタイ医療チームによる 1 か月二週間の福島県巡回が終了。2 チーム交替で県内全避難所をカバー。また巡回時、西方村の避難所から夏物の T シャツ 140 名分（1 人 2~3 枚）の要望があったのに対し、タイ政府から援助があり、事務局経由で配布。

パラグアイ政府から被災地に 100 万丁の豆腐を届けるプロジェクトがあり、配布活動に協力。6 月 5 日(日)には亘理町・山元町・南相馬市に 1 万丁を配布。現在は岩手・岐阜で豆腐を作っているが、宮城県内で豆腐を作っている所がないため探している。心当たりがあればご紹介下さい。

2.7 ホープワールドワイド・ジャパン（平山）

6 月第一週目週末には宮城県田子市民センターにて、炊き出し、障害者支援を含めた子どものケア、4 世帯の引っ越し支援を実施。6 月 6 日は DVC からの依頼により、南三陸町歌津中学校にて炊き出しを実施。6 月 7 日より、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援 P)派遣にて、亘理町にスタッフ 1 名を派遣予定。

また、JANIC 経由で情報を受けた米国食肉輸出連合会より、ウインナーとハムの寄付を受けることになり、6 月 7 日に各 400 袋ずつ仙台に納入される予定。

6 月 13 日には、難民支援協会と連携して弁護士を東松島市宮戸島に派遣予定。

毎週末派遣しているボランティアには、最近外国籍の方も含まれるようになっている。

2.8 富士通（佐藤、大岩）

CSR 推進部に所属。社内で復興支援チームを立ち上げた。コンピュータ企業ができる支援として、PC の提供を考えており、ニーズがあれば伺いたい。また仮設住宅の被災者ニーズを拾い、現地のニーズに基づいた企画やサービスをしたいと検討中。

2.9 グッドネーバーズ・ジャパン（芳賀）

心理的支援に関して、気持ちをマイナスからゼロへ戻す支援、ゼロからプラスへ持っていく支援という、二つの側面に分けて考えている。

前者においては、岩手県大槌町、釜石市の幼稚園保育園にて、教育者・保護者・子どものそれぞれを対象とした臨床心理士の心理ケアプログラムを、複数回のセッションに分けて開始。

後者に関しては、5 月 29 日無料バザー・6 月 4 日大槌再興祭等、イベントを実施。鎮魂

に加え、命ある者が復興に向けて立ち直っていく過程を後押しするという趣旨。思い切り笑える場がほしいという要望に応えて、吉本のコメディアンや歌手の演出、マグロ解体ショーやお寿司の提供、地元高等学校や自衛隊吹奏楽の演奏等。大槌町地元商店に出店してもらい、また設営過程でも地元民の手を借り、町民の町民によるイベントとしてグッドネーバーズが主催。その際には情報交換会で面識を作った企業に協力頂き、「企業の CSR 事業の受け皿としての NGO の役割」を考える契機になったため、この点は社会に対し提言していきたいと計画中。

2.10 Church World Service; CWS (伊藤)

JANIC の紹介を通して、「幼い難民を考える会」への支援が決定。福島県・宮城県の避難所で保育スペース運営を実施予定。

7月4日(月)に心理学者がキリスト教協議会に来訪予定。被災者や心理的トラウマを抱えた方に接する際の接し方、スタッフのトラウマケアについて NGO に向けて講演したいとのこと。各団体のニーズを知りたい。(続...3. 意見交換)

2.11 地球市民 ACT かながわ (近田)

阪神大震災支援の経験から、長期的な支援を目指しており(目安は3年間)ボランティア育成講座を実施中。反響大きい。

5月から調査を開始。釜石市役所からの紹介で、流されてしまった保育園二箇所と地域住民を結びつけるような納涼祭を12月まで6回に渡り実施予定。その過程で現地との関係を構築し、今後2~3年に渡る支援に繋げたい。

2.12 サザン・グレース (佐藤)

ヒーリング・サロンを都内で開いている。個人で長期的な支援を模索中で、オブザーバー参加。自身は外資系金融機関での勤務経験・ボイストレーニングの経験があり、金融や声に関するネットワークを紹介できる。都内に居ても出来る支援、報告会を開いて現地に行くボランティアを募ることやマインドマップなどでサポートしたい。

2.13 シアंकリエイティブ (菊池)

デザイン事務所。右脳を中心にものを考えている者が入ることで、違った切り口からの支援ができるのではないかと考えている。プロセスづくりから被災地支援をしたいと思っている。

2.14 ヒューマンライツ ナウ (浅井)

5月31日に青山学院大学にて、これまで活動調査に入っていた現地の報告会を実施、福島県いわき市で働いている弁護士をゲストスピーカーに招き現状を報告。国連人権高等弁務官事務所(OUNHCR)が6月22~24日の来日が決定。それに関し

て 22 日午後（14 時～17 時）に青山学院大学にて JANIC と協賛でトレーニングセミナー開催を検討中。国連の自然災害時の被災者保護に関するガイドラインに基づく内容。詳細は後日連絡予定

2.15 電通（梅津）

ソーシャルソリューション局で支援活動サポートを担当。オブサーバーとして参加

2.16 ピースポート（合田）

宮城県石巻を中心に活動中。女川町にも仮設住宅への物資運搬支援を行っているが、必要に応じて東松島にも支援区域を広げている。

セントラルキッチンに関しては、屋内で調理ができるように地域の居酒屋を借りて 3,000 食程度作り、在宅被災者に向けた配達を行っている。現在も調理師免許を持っている地元人材が担っているが、将来的には地域のコミュニティーキッチンにと考えており、外と地元との連携をいかに地元に落とし込むかという点でもモデルにしていきたい。避難所生活の長期化によりダニが発生しており、ダニバスターズを作りダニ退治を実施。6 月 7 日（火）、フジテレビのニュースジャパンにて、連携していたスリランカ政府派遣ボランティアの活躍が放映される予定

企業との連携に関しては、ブリジストンから三週以上に渡って週末ボランティア派遣 パルシステムより炊き出し材料の提供 IBM アメフト部・ラグビー部からボランティア派遣、土嚢袋を 1 日 3,000 個ほど片付けて下さったり、素晴らしい活動

また、6 月 12 日（日）14 時より JICA 地球ひろばにて報告会を実施予定。現場で指揮をしていた山本隆からの報告もある。

3 意見交換ほか

3.1 本情報交換会の今後の開催について

【JANIC 難波】

現時点で回収済みのアンケートによると隔週開催の要望が大多数で、次回からは隔週の方になる可能性が高い。曜日の変更も検討中（月曜は多忙という意見もあり）。ご意見等はアンケートの締め切りに関係なく今後も受け付けているため、引き続きご協力頂きたい。

3.2 福島における具体的な案件形成について

【JANIC 田島】

- ・ 福島県は、長期的且つ地道に取り組まなければならない。その点で他県とは多少異なるが、外からのアプローチではなく、中にあるニーズを拾い上げていくことから復興を進める必要があるのではないかという考えのもと、このような案件（別添 1）を挙げた。

自分の団体でなくとも心当たりがあれば、情報を共有させて頂きたい。

AAR：「こころのケア」などの小さな案件はあるが、今後新たに大きなプロジェクトを進めることが可能かどうかは現段階では不明。

JICA：福島県の協力隊 OB/OG 会に伝達したい。二本松での仮設入居後の自治組織づくり支援に関しては検討中。ただ支援者の安全確保もあり、限界が出てくると思われる。

3.3 質問・その他

・ JANIC 田島：CWS の心理ケア後援についてニーズは？

CWS：7月4日開催予定のCWSの講習については、本情報交換会前の時間帯を使って実施する予定。詳細は後日情報を流す。

・ AAR：福島でのフー太郎の森基金の仮設への物資供与は、重複の恐れはないか？

JANIC 竹内：フー太郎の森基金の仮設住宅の生活必要物資提供については、団体が持ち込んだ物資の中から、必要なものがあれば被災者が持っていくという手法を取っており、AARの活動と重複する可能性は低い。また同様に、いわき市で先行して物資提供を行っているシャプラニールの活動についても、JPFが市とも連携して調整しているため問題ないと思われる。

・ CWS：草木を使った放射能の除染活動を進めている海外団体から、福島県相馬市の現地団体と連携したいという要望を聞いている。フー太郎の森基金にもコンタクトしてみたいが、心当たりがあればご連絡頂きたい。

・ シアン・クリエイティブ：企業のCSR活動をつなぐようなネットワークはあるのか。

富士通：富士通では震災に関する震災復興支援チームが立ち上がっており、つなプロ等と連携して、自社のクラウドを通し在宅医療・買物支援サービスを無償提供している。その他連携としては、経済団体連合会を中心とした企業間連携や、電機メーカーを対象にした媒体もある。

CWS：フィランソロピー協会という連絡会議が上場企業を中心とした企業CSRの横のつながりとしてもある。(<http://www.philanthropy.or.jp/>)

JANIC 山口：JANICが中心となっているCSR推進NGOネットワークでもCSRとNGOとの繋がり促進をしている。(<http://www.janic.org/more/companyngo/>)

・ 地球市民 ACT かながわ：JANICの震災メーリングリストで流れてくる物資提供に関する情報を岩手県災害復興ネットワークに流しており喜ばれているのだが、発信される情報が減ってきている。JANICが持っているネットワークを使って掘り起こしてもらい、情報提供を活性化してもらいたい。

- ・グッドネーバース：新聞の活用方法について、感じたことをシェアしたい。全国紙に団体の活動が掲載されたところ、予想以上に反響が大きかった。新聞読者層について想像するところ、団塊世代より上の方（金銭面・時間面に余裕があり、趣味などを通して人的ネットワークも広い）というイメージ。反響が大きくなると、団体のキャパシティが小さいと対応しきれなくなってしまうが、大きな力を求めているのであれば、新聞の読者に該当するような層をうまく巻き込む戦略を組み立てるのも良い。

毎日新聞が出している「希望新聞」<http://w.mainichi.jp/eq/kibou.html>が6月13日に紙面を一新予定で、現地ニーズに関する詳細情報を提供できるNGO団体を探しているということであった。新聞は双方型のメディアとは違い、追加で情報をアップデートできない提示型のメディアであるため、目まぐるしく変化する細かい物的ニーズを載せるのは効率的ではないと提言した。新聞の良さを生かした良い活用法を模索しており、意見があれば伺いたい。

- 別添
- 1 福島県被災地の動き(5月30日～6月4日)
 - 2 福島県NGO/NPO団体活動 参考資料

次回： 第13回東日本大震災NGO情報交換会

6月21日(火) 15時～17時、早稲田奉仕園6階スカイラウンジ

第 12 回東日本大震災 N G O 情報交換会 出席者リスト

	団体名	出席者（敬称略）
1	Church World Service	伊藤 洋子
2	JGC 通訳ボランティア事務局	大崎 正信
3	JHP・学校をつくる会	田中 宗一
4	グッドネーバース・ジャパン	芳賀 朝子
5	つながり・ぬくもりプロジェクト	黒住 麻理
6	(株)電通	梅津 弓子
7	難民を助ける会（AAR）	名取
8	難民を助ける会（AAR）	岡
9	ピースポート	合田 茂広
1 0	ヒューマンライツ ナウ	浅井 美絵
1 1	ブリッジエーシア ジャパン	大津 祐嗣
1 2	ホープワールドワイド・ジャパン	平山 涼子
1 3	(株)富士通	佐藤 成英
1 4	(株)富士通	大岩 祐子
1 5	地球市民 ACT かながわ	バックレイ
1 6	地球市民 ACT かながわ	近田 真知子
1 7	(株)サザン・グレース	佐藤 光代
1 8	JICA	高田 宏仁
1 9	JICA	柴田 真希
2 0	シアンクリエイティブ	菊池
2 1	国際協力 NGO センター	山口、田島、竹内（福島担当）中森、難波